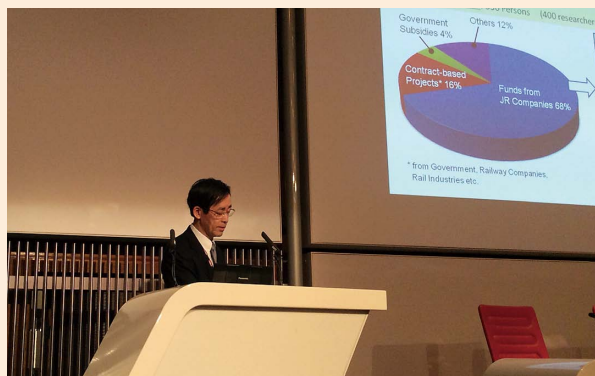


## 国際会議から

## 英国機械学会スティーブソン会議

本会議は英国機械学会の鉄道部門が主催する新しい国際会議であり、鉄道車両、信号、軌道をはじめとして、鉄道の多様な技術分野に関する研究開発論文が発表されました。参加者は内外の大学、研究機関、各国鉄道事業者、鉄道関係コンサル・メーカーなど、約70組織から約150名でした。一般の研究論文発表とは別に、世界の鉄道関係組織の幹部による基調講演も行われました。具体的には、鉄道総研の熊谷理事長、英国の鉄道会社であるNetwork Railの会長であるリチャード・パリー・ジョーンズ (Richard Parry Jones) 氏、RSSB (英国鉄道安全標準化機構) のCEOであるクリス・フェントン (Chris Fenton) 氏らが



基調講演を行う熊谷理事長

正式名称：Stephenson Conference  
 開催国：イギリス(ロンドン)  
 期間：2015/4/21-23  
 主催：the Institution of Mechanical Engineers (IMEchE)  
 開催頻度：未定  
 次回開催予定：未定  
 ホームページURL：<http://events.imeche.org/ViewEvent?code=C1408>



土屋隆司  
国際業務部  
部長

講演しました。熊谷理事長の講演では、日本の鉄道のこれまでの発展経緯とその日本社会・経済への貢献を概観した上で、鉄道総研の鉄道技術、特に新幹線への貢献に関して紹介しました。最後に鉄道総研が今後の鉄道の発展とより良い社会の実現のために引き続き貢献していく決意を表明するとともに、世界の鉄道の発展のためには、国際的な連携・協調が不可欠であることを述べて講演は締めくくられました。講演後の質疑では、鉄道のコストダウンへの取り組みやマグレブの消費エネルギーなどに関する多数の質問がなされるなど、日本の鉄道技術や鉄道総研の技術開発に高い関心が示されました。なお、本会議の一般論文の総数は80件、鉄道総研からは、車両力学研究室の田中隆之研究員が車両関係のセッションで発表を行いました。



発表を行う田中隆之研究員

国際会議から 第3回鉄道分野における教育に関する国際会議

本国際会議は、UICの主催により2年に1回行われる鉄道分野の教育に関する会議です。第1回はマドリッド、第2回はウィーンで行われ、第3回はポルトガルの首都リスボンで開催されました。今回はアジア、アフリカ、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、中東の40カ国の鉄道事業者の教育担当者や研究機関の研究者237名が参加し、非常時の訓練ツールや作業員の安全行動の促進教育手法などについての発表が行われました。

筆者は、この会議にて指差喚呼のエラー防止効果について発表をしました。指差喚呼 (Point and call check) は日本の鉄道運転士が行っているエラー防止方法としてヨーロッパでも非常に高い関心を持たれており、発表後には自社でも導入を検討したいといった感想や、さらに詳細な研究内容を教えて欲しいといった感想を頂きました。



ロシオ駅構内の様子



夜のロシオ駅



発表中の著者

中村 竜  
人間科学研究部  
安全心理研究室  
副主任研究員

会議のディナーは、リスボンで最も美しいといわれるロシオ駅のホームで行われました。お客様が乗り降りしている駅でのディナーは貴重な経験となりました。

正式名称：3rd UIC World Congress on Rail Training 2015  
開催国：ポルトガル(リスボン)  
期間：2015/4/15-17  
主催：UIC  
開催頻度：隔年  
次回開催予定：2017年(開催月日、国は未定)  
ホームページURL：http://www.wcrt2015.org/en

正式名称：3rd UIC World Congress on Rail Training 2015  
開催国：ポルトガル(リスボン)  
期間：2015/4/15-17  
主催：UIC  
開催頻度：隔年  
次回開催予定：2017年(開催月日、国は未定)  
ホームページURL：http://www.wcrt2015.org/en